

報道関係各位

2014年10月29日

慶應義塾大学 SFC 研究所

「努力か？才能か？」スポーツにおける熟達化シンポジウムを12月6日（土）に開催 - 熟達化研究の第一人者であるエリクソン博士を招いて -

慶應義塾大学加藤貴昭・永野智久・水鳥寿思研究室は、SFC 研究所、湘南藤沢学会、ABLE(慶應義塾大学今井むつみ研究室・東京コミュニティスクール)と共に、熟達化研究の第一人者であるフロリダ州立大学教授のエリクソン博士の来日を期に、為末大氏や杉山愛氏ら、日本のスポーツ界を代表する方々を交え、「努力か？才能か？」をテーマに、スポーツにおける熟達化シンポジウムを開催します。

特に様々な分野(スポーツ、音楽、医学、チェスなど)での熟練過程において注目されている「Deliberate Practice」を長年研究しているエリクソン氏の理論をもとに、アスリート、選手育成、また関連研究の立場から各方面の方々にご登壇いただき、世界で勝てるトップアスリートになるために必要なのは才能なのか？努力なのか？また、2020年に向けて日本のスポーツ界はどうあるべきか？など、研究としての理論的枠組みのみならず、実践的な応用も視野に入れたパネルディスカッションを予定しています。

本シンポジウムへの参加は無料ですので、スポーツ競技現場に関わる方々をはじめ、広く一般の方々にもご参加いただき、エリクソン氏の理論をはじめ、本シンポジウムのテーマについて皆様方と共に考える場にしたいと考えております。

本イベントの告知とシンポジウムのご取材をお願いいたしたく、ご案内申し上げます。

1. シンポジウム概要

日時：12月6日（土）15：00～18：30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎ホール <http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

(JR 田町駅下車 徒歩8分、都営 三田駅下車 徒歩7分、都営 赤羽橋駅下車 徒歩8分)

スケジュール：

14:30	開場
15:00-15:10	開会の挨拶
15:10-16:10	Dr. K. Anders Ericsson 講演
16:20-18:20	パネルディスカッション「才能とは何か?」「2020年に向けた育成」など モデレータ：加藤貴昭(スポーツ心理学) パネリスト：為末大(陸上)、杉山愛(テニス)、水鳥寿思(体操)、山縣亮太(陸上)、 坂田淳二(アイスホッケー)、平野一成(JOCエリートアカデミー)、 北村勝朗(スポーツ心理学)、銅谷賢治(神経科学)、万小紅(神経科学)、 今井むつみ(認知科学)、永野智久(スポーツ心理学)
18:20-18:30	閉会の挨拶

対象：どなたでもご参加いただけます(参加費無料)

申込：本シンポジウム WEB サイトより、ご確認ください hpl.sfc.keio.ac.jp/ericsson/

主催：慶應義塾大学加藤貴昭・永野智久・水鳥寿思研究室

共催：SFC 研究所、湘南藤沢学会、ABLE(今井むつみ研究室・東京コミュニティスクール)

特別協力：内田洋行教育研究所、アスリートソサエティ、PRIME FILED ASIA

協力：慶應義塾体育会

なお、11月29日・30日には仕事、学業を含む様々な場面での「熟達と学び」についてエリクソン博士を囲み将棋棋士の羽生善治氏、日本学術振興会会長・中央教育審議会会長の安西祐一郎氏他研究者が議論する ABLE のイベントも別途開催します(<http://cogpsy.sfc.keio.ac.jp/able/>)。こちらのイベントにもぜひ取材にいらしてください。

2. エリクソン博士について

ノーベル賞受賞者である Herbert Simon のもとで人間の意思決定、認知過程、熟達化などを研究し、ベルリンの音楽アカデミーでのバイオリニストの研究などにより「Deliberate Practice」理論を確立しました。この「Deliberate Practice」は、チェスや外科手術、様々なスポーツ競技の熟達者が20歳になるまでに1万時間、さらに10年以上経験しているという練習であるという結果があります。近年アメリカなどでベストセラーとなった「Outlier」や「Talent is overrated」などの著書でも取り上げられ、研究のみならず様々な分野での学習者の興味をひきつけています。今回のシンポジウムは、エリクソン博士の貴重な来日に合わせて企画されたものです。

<本企画担当教員>

慶應義塾大学 環境情報学部 准教授 加藤貴昭

<本資料に関するお問合せ先>

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担 河越

電話：0466-49-3436 E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp